

## 彙報

第六十九回研究発表会

令和二年一月二十八日

於 Microsoft Teams を用いた

オンライン学会

「研究発表」

外来語の連体修飾における「　」の型から「　な」型への交替

本学四年生

片岡 みなみ

小泉八雲「雪女」の特殊性

平成三十年卒業生 和田 理紗子

疫神を感じしめたもの―朗詠「隴山雲暗」句注の説話について―

本学教授 福島 尚

卒業論文題目(令和元年度、本学会運営員の指導学生による卒業論文)

阿部 日菜子

太宰治「フオスフオレッセンス」論―

構造と語りから読む「太宰治」―

荒谷 雄太

川端康成「油」論―「私」の変化と受

容について―

伊藤 美沙希

台湾人観光客を高知に誘致するため

井上 美由記

助詞「の」による同格構文の通時的変遷

岩崎 真大

内田百閒『冥途』論

鶴木 見早

『枕草子』における月の描かれ方

大林 千鶴

小川国夫「生のさ中に」論―「アポロ

ナスにて」を中心に―

尾崎 菜稚嘉

夢野久作作品における「悪魔」像―「一

足お先に」を中心に―

梶浦 花

『宇治拾遺物語』における鬼・霊・神

鎌村 日向子

西洋人・日本人遍路との比較から見る

台湾人遍路の特徴とは―台湾人への

アンケート調査から―

川越 靖子

宮沢賢治「セロ弾きのゴーシュ」論

神崎 陽日

和泉式部と「世の中」

清谷 麻夕奈

『宇治拾遺物語』語りの方法―『古事

談』との比較から―

小濱 美央

山本一力『いずゞ鳴る』の本文異同

齋藤 香織

佐竹一男著「小筑紫村の方言と習俗」を主資料とした高知県小筑紫方言の研究

迫田 祥仁

毛沢東イメージの変遷

武江 美洋

梶井基次郎「檸檬」論―「えたいの知

れない不吉な塊」と檸檬―

谷内 希実

菊池寛「暴君の心理」から「忠直卿行

状記」への改作について

辻 涼太

『平家物語』における「祇王説話」

田 伊純

安部公房『砂の女』論

土口 景大

言文一致体小説の成立について

富井 瑠香

日本の高齢者介護の課題―高齢者、家

族、施設職員それぞれの立場から―

西村 菜々

日本近代文学における「宿命の女」像

の形成―谷崎潤一郎「痴人の愛」のナ

オミに注目して―

濱崎 郁美

第一―三話から見る『宇治拾遺物語』

の表現

坂東 映映

『宇治拾遺物語』の教訓的評語の解釈について

東谷 優太

「夜長姫と耳男」論―坂口安吾の古代史観・文学観を通して―

常陸 奈央

太宰治「葉桜と魔笛」論―語り手「私」の思い―

方 思佳

資生堂の中国進出―ブランドイメージ構築の秘密―

三浦 菜津

中国帰国者への日本語支援―日本及び高知県の政策についての課題と対策―

宮原 李奈

方言の標準語化・衰退・消滅について―若者の方言への関心度の調査から考察―

宮本 真奈

森鷗外『キタ・セクスアリス』論―主人公、金井湛の欠陥

安岡 のどか

『宇治拾遺物語』序文と説話の連想

矢田 帆乃香

『徒然草』の女性論章段における虚構性

山根 大輝

『今昔物語集』蛇説話考

山本 采季

外国人日本語習者に見られる格助詞の誤用―韓国語を母語とする日本語習者を対象に―

高知大学国語国文学会則

(平成二十八年十一月二十六日 改定)

一、本会は高知大学国語国文学会と称する。

二、本会は、次の会員をもって構成する。  
(1) 文学部国語国文学科卒業生(昭和二十四年度〜昭和五十一年度入学)

(2) 人文学部国語国文学科卒業生(昭和五十二年度〜平成三年度入学)

(3) 人文学部日本・東洋文化コース卒業生で、日本語学、日本文学、中国語学・文学を専攻したもの(平成四年度〜平成九年度入学)

(4) 人文学部卒業生で、日本語学、日本文学、中国語学・文学を専攻したもの(平成十年度〜平成二十七年度入学)

(5) 人文社会科学部卒業生で、日本語学、日本文学、中国語学・文学を専攻したもの(平成二十八年度入学以降)

(6) 大学院人文社会科学研究所の修了生で、日本語学、日本文学、中国語学・

文学を専攻したもの(平成十一年度〜平成二十年度入学)

(7) 大学院人文社会科学専攻の修了生で、日本語学、日本文学、中国語学・文学を専攻したもの(平成二十一年度入学以降)

(8) 日本語学、日本文学、中国語学・文学を担当する人文学部・人文社会科学部教員

(9) 教育学部国語科関係教員

(10) 人文学部、人文社会科学部および大学院人文社会科学専攻において日本語学、日本文学、中国語学・文学を専攻する在学生

(11) 本会の趣旨に賛同し、入会を認められたもの

三、本会は、会員相互の連絡と学術研究の進展とを図ることをもって目的とする。

四、本会に左の役員を置き、役員会を構成する。

(1) 運営委員―日本語学、日本文学、中国語学・文学を担当する人文学部・人文社会科学部教員がこれに当たり、うち一名を代表者とする。代表者をもって会長とする。

会長の任期は二年とし、連続する再任は一度までとする。

(2) 幹事―卒業生・修了生および在学生(学部生・大学院生)から若干名を当てる。

五、本会の目標を達成するため、左の事業を行う。

(1) 総会、懇親会の開催

(2) 研究発表会、講演会の開催

(3) 機関雑誌の発行

(4) 会報の発行

(5) 会員名簿の作成

(6) その他必要な事業

六、本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもって当てる。

七、本会の事務は、運営委員である人文学部・人文社会科学部教員の研究室において行う。

八、会員は、次の会費を納入しなければならない。

年額千円。ただし、在学生(学部生・大学院生)は年額五百円とする。

九、五年にわたる会費未納者は、会員資格を停止するものとする。

十、会員は別に設ける投稿規程にもとづき、機関雑誌に投稿することができる。

十一、会員は別に設ける研究発表規定にもとづき、研究発表会での口頭発表を希望することができる。

十二、本会の会則の変更は、総会の議を経るものとする。

#### 附則

##### 【投稿規定】

(1) 日本語学、日本文学、中国語学・文学に関する学術研究であること。

(2) 内容は未発表のものであること。ただし、口頭発表はこの限りではない。

(3) 採用に関する審査は運営委員会において行う。

(4) 分量は、四百字詰原稿用紙四十枚相当前後とする。

(5) 投稿締切日は、その年度の九月末日とする。

(6) 本誌収録の論文等の学術研究や教育成果物について、「高知大学学術情報リポジトリ」への登録を申請し、電子的に公開する。ただし、執筆者から、本文を電子的に公開することを許諾しないと連絡があった場合には、その執筆者の論文の本文のみ、電子的に公開する対象から除外する。

##### 【研究発表規定】

(1) 日本語学、日本文学、中国語学・文学に関する研究発表であること。

(2) 内容は未発表のものであること。

(3) 発表者決定に関する審査は運営委員会において行う。

(4) 発表時間は二十分とする。

(5) 申し込み際に際しては六百字程度の発表要旨を提出すること。

(6) 申し込み締切日は、その年度の八月末日とする。

なお、本会則は、平成二十八年四月一日に遡って適用する。

#### 後記

○本号は、本学教員の、福島尚氏、北崎勇帆氏、令和元年度の本学卒業生で、現在は本学大学院人文社会科学専攻修士課程に在籍している齋藤香織氏、平成三年度の本学卒業生の和田理紗子氏にご投稿いただき、本学会の昨年度の研究発表会でご講演いただいた高知県立高知城歴史博物館館長の渡部淳氏に、ご講演要旨をご寄稿いただきました。福島氏の日本古典文学の論文、北崎氏・齋藤氏の日本語学の論文、和田氏の日本近代文学の論文、渡部氏の日本歴史学のご講演要旨を収めています。力作をお寄せいただいた各氏にお礼申し上げます。

○今年度は、新型コロナウイルス感染拡大に歯止めがかからない状況であることを考慮して、Microsoft Teams を用いたオンラインでの研究発表会を、十一月第四週の土曜日に開催いたしました。オ

オンラインでの研究発表会は、本学会では初の試みで、不安もありましたが、円滑に進めることができました。オンライン開催に向けて入念な準備をしてくださった北崎勇帆氏を始めとした運営委員一同に感謝申し上げます。

○研究発表会では、片岡氏みなみ氏が、現代では「ロマンチックな」のように「くすな」の形で連体修飾する外来語が、明治期には「ロマンチックの」のような「くす」の形で現れることに着目し、その「くす」から「くすな」への推移についての発表を、和田理紗子氏が、小泉八雲の「雪女」の特質を、「雪女」以前の八雲の再話作品や種々の異類婚姻譚と比較して明らかにする発表を行ってくださいました。また、福島尚氏は、「隴山雲暗く」の句が疫神（疫病神）の心を動かして、その作者菅三品の家の者が病を免れたという話を取り上げ、その伝承状況を調査しつつ、この句の秀句とされる所以を考察する発表を行ってくださいました。福島氏の発表には、新型コロナウイルス感染症鎮静の願いが託されていたのではないかと思えます。三氏いづれも大変興味深い発表でした。なお、本号に、福島氏・和田氏の発表に基づく論文が掲載されています。

○研究発表会の在学生の参加は例年並みで、卒業生の参加は四人と少数でした。オンラインでの研究発表会に戸惑われた方もいらっしやったのかも知れませんが、この四人のうちのお一人から、以下のような嬉しい感想をメールでいただきました。ご本人から、引用してもよいというお許しをいただきましたので、メールの一部を引用して、紹介させていただきます。

今回オンラインで研究発表を拝聴し、久しぶりに高松にいながら大学の雰囲気を感じることができました。コロナでなくてもなかなか高知まで足を運ぶことが難しくなりました。コロナで参加することができて喜んでおります。なにしろ研究発表会が始まる5分前まで家事ができる！今更ながら、オンライン会議システムすごいですね（実は本月初体験でした）。すっかり学問の世界から遠ざかってしまっている私にとっては革命でした。来年度はこれまでも対面での研究発表会が開催できることを切に願いますが、今後もこのような形で参加させていただけるのであれば、個人的

にはたいへんうれしいです。一卒業生として、語国文学会のためにできることもほとんどありませんが、陰ながら一生懸命応援させていただきます。これから大学は卒論、入試の季節ですね。例年通りにかかないことばかりで、ご心労もいかりかと存じますが、どうぞご自愛のほどお祈り申し上げます。疫神が研究発表に感動してどこかに行ってくださいように…

このような有難いお言葉をいただき、心より御礼申し上げます。私もまた、疫神が退散してくれることを願うばかりです。もつとも、現在の感染状況を踏まえ、来年度の研究発表会もオンラインでの開催になる可能性は十分に考えられます。卒業生の方におかれましては、高知から遠く離れた場所においても簡単に参加出来ますので、オンライン開催になった場合でも、是非、ご参加くださいますようお願いいたします。

○本学元人文学部長で、運営委員として、本学会の活動を長年に渡って支えてくださった渡邊輝道先生が、令和二年十一月十二日に逝去されましたので、ここに謹んでお知らせいたします。次号に追悼文を掲載する予定です。

○本誌では、四十九号より、著者からの許諾を得た論文等を、「高知大学学術情報リポジトリ」に登録し、電子的に公開しておりますが、時勢に鑑み、四十九号より前の論文等も順次公開します。公開を希望しない論文等につきましては、別途ご連絡いただければ、公開の対象外とします。

※会費納入のお願い

本学会の運営は現在厳しい状況になっております。ここ何年もの間、単年度の赤字決算が常態化していて、貯金を取り崩して運営しております。このままでは、そう遠くない将来、貯金は底を突き、やがては、学会を閉じなければならぬことも考えられます。会費の納入率の低下がその要因です。本年度は、十月下旬に、「会費納入のお願い」の用紙と振替用紙とを発送させていただきましたので、未納の方は、会費の納入を何卒お願い申し上げます。運営委員一同、皆様に会費を納入していただけるような魅力のある学会運営を目指してまいります。

二〇二〇年十二月十九日 印刷

二〇二〇年十二月二十日 発行

高知大 国文 第五十一号

発行者 高知大学国語国文学会

〒780-8520 高知市曙町二丁目五番一号

発行所 高知大学国語国文学会

振替 〇一六一〇一〇一五〇二四

印刷者 株式会社リーブル